

2026年度事業計画書

1. はじめに（VICS を取り巻く事業環境）

2025年度第3四半期までのVICS対応車載機の累計出荷台数は、8,835万台となり、VICSはドライバーにはなくてはならない社会インフラとなっている。

こうした中、国内の社会情勢に目を向けると、近年の地球温暖化や気候変動に伴いゲリラ豪雨や台風、大雪等の災害が多発しており、渋滞情報の精度向上に加え、人命救助や災害復旧における、迅速かつ円滑な情報提供の重要性が一層増している。さらに、オーバーツーリズムによる観光地等での渋滞や物流分野での人手不足の問題も深刻化している。

一方、技術の進展においては、近年のAI技術の急速な発展により、様々な分野で技術が驚くべき速さで進化している。自動車においても、通信機を装備したコネクテッドカーの普及が進み、自動車が単なる移動手段から、車両の状態や周囲の道路状況などの様々なデータを取得し、ネットワークを介しクラウド上でビッグデータをAI解析することにより、新たな価値を生み出すデジタルプラットフォームへと進化しつつあり、これに伴いカーナビやスマホ等への道路交通情報の提供サービスも急速に多様化している。

こうした状況を鑑み、VICSセンターは、その取り巻く事業環境の変化に素早く的確に対応し、次世代ITSの一翼を担う存在として、今後も進化を続けていくことが求められている。

2. 前年度（2025年度）の事業概況

（1）VICSプローブシステムの運用と高度化

5年間の「カーナビへのプローブ情報活用サービスの実証実験」を通じて、VICSプローブの渋滞情報の精度確立、システム運用の信頼性やセキュリティ強化などの技術的課題を解決し、2025年4月から、VICSプローブ活用サービスの本格運用を開始した。

また、渋滞情報の更なる精度向上の方策を検討し、その改善効果を確認した。

（2）プローブ情報や車両データ等の利活用の検討

VICSプローブを活用した災害時通行実績情報の配信については、関係機関との連携により、2026年1月1日からの運用開始に合わせ準備を終えた。

また、大型車が収集するプローブデータの利活用の可能性についても検討した。

（３）現行サービスの改善と新たなサービスの実現検討

大雪時通行規制情報等の配信サービスについては、九州地域において、大雨時への適用を完了するとともに、他地域への展開についても検討した。さらに、新たな災害情報提供サービスとして、浸水害、洪水、土砂災害危険度分布情報の活用の検討を開始した。

また、大阪・関西万博の開催に合わせ、事業者提供サービスでも、「イベントおよび規制のう回エリア情報提示サービス」を開始するとともに、パーク＆ライド支援として、最寄り駅周辺の大型民間駐車場の満空情報の配信を通常時の約１０倍に拡大した。

（４）システム２．０（センターシステム・放送所設備）の高度化・安定運用

２０２６年度末に更新時期を迎えるセンターシステムの更新に向け、ハードウェアの更新と OS・ミドルウェアのアップデート、アプリケーションの機能改善等に着手した。

また、センター・放送所間ネットワークの強化に関しては、唯一メタル回線となっていた水戸局の光回線への切替えを実施し、安定したサービス提供を可能にするとともに、全国放送所への非常用衛星回線についても更新に着手した。

さらに、センターシステムの将来的な全面更新に向け、クラウド化を含めた次期システムの検討に着手した。

システムの安定的な運用管理に向けては、サイバーセキュリティ訓練、関係機関との合同災害対策訓練、臨時災害放送用可搬型設備の設置訓練、保守委託事業者を対象としたテクニカルワークショップをそれぞれ複数回実施し、災害時等の対応力強化に努めた。

（５）新たなニーズへの適切な対応

VICS サービスの維持、改善に向け、ユーザーニーズ調査を継続するとともに、その調査でさらに深掘りすべき事項として挙げがっていた、若年層へのナビ利用についての調査をインタビュー形式で実施した。

VICS センターの今後の方向性を検討するにあたり、まず車載機連絡会において、車載機の将来動向に関する調査を実施した。さらに、カーメーカーおよびナビメーカーを個別に訪問し、意見交換を通じて詳細なニーズを把握した。

３．基本的な方針

車載機の多様化等により、VICS 対応車載機出荷台数は前年度に比べ減少傾向となっている。こうした状況を踏まえ、２０２６年度は、VICS プローブの品質および性能向上、システム２．０（センターシステム・放送所設備）の安定運用の確保、広報・普及促進活動といった従来からの継続施策については、今まで以上の効率的な事業運

営に努めるとともに、これまでの動向調査やニーズの把握を踏まえ、VICS サービスや次期システム等について、ステークホルダーと議論を重ねた上で、VICS センターの今後の方向性をまとめ、第5次中期事業計画の策定に着手する。

4. 2026年度の重点的に取り組む施策

(1) VICS プローブシステムの改善・高度化と現行および新規サービスの検討

①VICS プローブシステムの改善・高度化

渋滞情報精度の更なる向上方策を策定し、システム開発を進める。あわせて、運用の効率化に関するシステム開発を並行して進める。

②現行サービスの改善と拡充

災害危険度分布情報の活用など新たな災害情報提供サービスや渋滞エリア情報と臨時駐車場情報を組み合わせてカーナビ上に表示し、計画的な渋滞回避行動を促す情報配信サービスのニーズ調査や有効性評価を実施するとともに、実現に向けた課題と解決策を検討する。

③新規サービスの検討

VICS サービスの付加価値向上を実現すべく、関係機関と連携した、交通障害情報の拡充など配信コンテンツの充実を図るとともに、協調領域における新サービスの実現性を検討する。

(2) システム2.0（センターシステム、放送所設備）の高度化と安定運用

①システムの更新と安定運用

2026年度末に更新時期を迎えるセンターシステムの更新を確実に実施するとともに、これにあわせて現在運用中のシステム2.0の安定運用の確保とサービスの拡大・改善に対応するために、システム稼働状況の監視機能の整備を継続して実施する。

また、回線事業者のサービス更新を受け、衛星回線を含めた全国放送所との通信回線の更新作業を本格化する。

②次期システムの検討

センターシステムの将来的な全面更新に向け、次期システムの要件整理を行う。

③運用管理等に関する取組の継続・強化

センターシステムおよび放送所設備の安定運用を継続するとともに、放送の品質確保・信頼性向上を図るべく、関係機関との合同災害対策訓練、臨時災害放送用可搬型設備の設置訓練、FM多重放送に関する技術継承(テクニカルワークショップ)などの取組を継続し、インシデントへの対応力および運用体制の強化を進める。

（３）新たなニーズへの適切な対応

①ユーザーニーズの把握と VICS 対応車載機出荷台数調査

VICS サービスの向上のため、ユーザー調査によるニーズの把握や提供サービスの評価を継続する。さらに、VICS 対応車載機出荷台数の調査・分析を行うとともに、出荷台数予測を行い、今後の計画策定に役立てる。

②VICS センターの方向性の検討

VICS センターを取り巻く環境および車載機の技術動向などを幅広く調査するとともに、ステークホルダーとの議論を通して、VICS センターの今後の方向性をまとめ、第５次中期事業計画の策定に着手する。

（４）継続施策の改善・進化

従来から進めてきた知的財産の維持・確保、財務基盤の強化、広報・普及促進活動等については、今後の VICS センターの継続・発展のために不可欠であるため、これらの改善・進化を引き続き推進する。

① 知的財産の維持確保および財務基盤の強化

事業の安定的な継続に向け、財源を確保するための知的財産権の管理は、VICS センターの経営において重要な課題であり、引き続き技術開示契約先における技術情報の管理と VICS 対応車載機出荷実績の適切な報告を求め、契約の順守状況を継続して確認する。また、車載機仕様が多様化してきていることを踏まえ、技術開示先の車載機開発のニーズを踏まえつつ、技術開示収入の適正な確保を継続する。

② 広報・普及促進活動の一層の推進

ステークホルダー等へのタイムリーな情報発信を継続し、関係強化に努めるとともに、引き続きユーザーの声の収集を図り、VICS サービスの改善につなげる。

あわせて、ターゲット（若者やニューファミリー層等）を絞った展示イベント対応を通じた認知度向上活動を推進する。

（５）業務管理等

長期的かつ安定的にユーザーに期待されるサービスを継続するため、VICS センターの財務基盤の安定化を図り、効率的な経費の支出に取り組む。

また、業務を支える OA システム運用の安定確保と改善ならびに業務効率化に取り組み、業務環境の改善を図る。

（６）最後に

VICS センターは、ステークホルダーの皆様のご支援ご協力を得て、設立から３０年となり、昨年７月には、多くの関係者に参加いただき、記念式典および祝賀会を開催した。これからは、転機を迎えている取り巻く環境の変化の中、「ドライバーに的

確な道路交通情報を提供することにより、安全で快適な道路交通環境の確立に寄与すること」という設立の目的を踏まえ、変化に対し、迅速かつ的確に対応することで、引き続きモビリティ社会を支え続けられるよう、各種課題に取り組んでいく。